

平成24年7月12日
第5回常任委員会決

第73回国民体育大会 開催基本構想



平成30年福井国体

平成24年7月

第73回国民体育大会福井県準備委員会

目 次

はじめに ～第73回国民体育大会開催基本構想の策定に当たって～	1
第1章 福井国体の開催に向けて	2
1 国体とは	2
2 国体の歴史	2
3 国体の改革に向けた流れ	3
4 福井国体の開催意義	3
第2章 福井国体の基本目標と福井県が目指す国体	4
1 福井国体の基本目標	4
2 福井県が目指す国体	4
第3章 福井国体の舞台づくり ～開催に向けた取り組み～	5
1 県民の総力を結集した国体	5
(1) 県民総参加の大会	5
(2) 人と環境にやさしい大会	5
(3) 効率的な大会	6
2 国体を通してスポーツ文化を浸透	6
(1) スポーツへの関心の向上	6
(2) スポーツ環境の整備	7
(3) スポーツを幅広く推進（競技から運動まで）	7
3 ふるさと福井の魅力再発見・発信	8
(1) 心に残る交流の促進	8
(2) 福井の魅力再発見と発信	8
(3) ふくいブランドの発信	8
第4章 福井国体の主人公たち ～活躍が期待される主体とその役割～	9
1 選手	9
2 県民	9
3 競技団体	10
4 企業	11
5 各種団体	11
6 市町	12
第5章 福井国体の成果	13

はじめに ～第73回国民体育大会 開催基本構想の策定に当たって～

国民体育大会（国体）は、昭和21年の第1回大会以来、我が国最大のスポーツの祭典として広く親しまれ、国民の健康増進と体力向上、スポーツの普及と発展、そして豊かで活力ある地域社会づくりに大きく寄与してきました。

福井県では、昭和43年に「明るく、きよく、たくましく」をスローガンに、明治百年記念となる第23回国民体育大会を開催しました。この大会は、人口百万人以下の県で初めて開催された大会として、県民一人ひとりに協力の精神と自信をもたらし、開催から40年以上の時を経た今でも、ボートやホッケーなど、数々の開催競技が地域に根づいています。

そして、前回の開催から50年目に当たる平成30年に、二巡目となる第73回国民体育大会（福井国体）を開催します。

この開催基本構想は、福井国体ビジョン（平成22年2月 国体ビジョン策定委員会策定）および第73回国民体育大会開催基本方針（平成22年8月 第73回国民体育大会福井県準備委員会第1回総会決定）に基づき、大会の開催および開催準備の指針となる開催目標とその実現に向けた方向性を明らかにするものです。



昭和43年 福井国体（秋季大会） 開会式 [福井運動公園陸上競技場]

第1章 福井国体の開催に向けて

1 国体とは

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を目指し、地方スポーツの振興と地方文化の発展を図ることを目的として、毎年開催されている国内最大の国民スポーツの祭典です。

「冬季大会」と「本大会」の競技得点の合計を競う都道府県対抗方式で開催され、天皇杯（男女総合成績1位）・皇后杯（女子総合成績1位）の獲得を目指し、都道府県代表の選手が各競技で熱い戦いを繰り広げます。

福井国体では、競技得点の加点対象となる「正式競技」のほか、「特別競技」、「公開競技」、福井県民を参加対象とする「デモンストレーションスポーツ」といった競技を実施することになります。

福井国体における実施予定競技

<正式競技>（37競技）

陸上、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、山岳、カヌー、アーチェリー、空手道、なぎなた、クレー射撃、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン

<特別競技>（1競技）

高等学校野球（硬式、軟式）

<公開競技>（4競技） ※開催は任意

ゲートボール、グラウンド・ゴルフ、パワーリフティング、綱引

<デモンストレーションスポーツ> ※開催は任意、県民対象

（例）少林寺拳法、バウンドテニス、ペタンク など

2 国体の歴史

国体は、戦後の混乱期の中で国民に希望と勇気を与えるため、昭和21年に京阪神地方において第1回大会が開催されて以来、毎年、各都道府県持ち回りで開催されています。

昭和23年第3回福岡県大会から都道府県対抗方式が確立し、天皇杯と皇后杯が創設されました。また、昭和63年第43回京都府大会から二巡目に入り、全国を東・中・西地区に分けて順に開催しています。

福井県では、昭和43年、第23回国民体育大会が開催されました。当時の福井県の人口は約75万人で、人口百万人以下の県で初めて開催された大会となりましたが、「親切国体」という愛称のもと、全ての人に親切に、足りないところは真心で補おうと75万県民総参加で取り組んだ結果、天皇杯獲得を成し遂げ、大会自体も大成功を収めました。

3 国体の改革に向けた流れ

これまでの国体は、スポーツ選手の育成を図るとともに、スポーツ施設整備の絶好の機会となり、地域スポーツの振興に大きな役割を果たしてきました。また、情報発信、道路などのインフラ整備が行われ、地域の活性化にも大きく貢献してきました。

しかしながら、近年、スポーツの国際化の進展や社会情勢の変化等により、国民の国体への関心低下や国体を開催する都道府県が強いられる過度の人的・財政的負担といった課題が生じ、国体が二巡目を迎える中、国体の改革を求める気運が高まってきました。

そうした背景の中、公益財団法人 日本体育協会（日体協）において、具体的な国体改革が進められ、例えば、それまで冬季、夏季、秋季の3会期で実施されていた国体は、夏季大会と秋季大会が本大会として統合され、平成18年以降は冬季大会と本大会の2会期で開催されています。その後も、日体協は国体改革を進めており、平成27年の和歌山国体から、実施競技が正式競技（37競技）、特別競技（1競技）、公開競技（4競技）、デモンストレーションスポーツという形に改められることとなりました。

4 福井国体の開催意義

前回の昭和43年の福井国体は、県内全域にスポーツ熱をもたらし、数多くの市町に開催競技が根付くきっかけとなりました。また、国体で活躍した選手が、その後、各競技の指導者になることで、県内のスポーツ全体の競技力向上に大きな役割を果たしてきました。そして、当時の思い出や記憶は、現在もお、県民の心の中に残っています。

このように国体は、国内最高レベルの競技を間近で見ることができるとともに、単なる一過性のスポーツイベントでなく、その開催により、競技スポーツはもちろん生涯スポーツの振興が図られます。

また、国体は全国各地から延べ数十万人※という人々が来県する、国内最大規模のイベントです。開・閉会式、各競技会、民泊など様々な機会を通じ、新たな交流の場として、全国各地の人々と県民が触れ合うことができ、また、豊かな自然、文化、食などの福井県の魅力を県民自らが再発見し、磨き上げ、全国に発信することができます。

※H23山口国体：延べ68万人、H22千葉国体：延べ62万人

1 福井国体の基本目標

「スポーツの感動を広め、未来へつなげる」

国体は国内最高のスポーツの祭典です。選手がどんな時にもあきらめず、最後まで持てる力の全てを発揮することで得られる感動、大会をさまざまな形で支え、成功に導くことで得られる感動、スポーツを通じてふれあい、絆を深めることで得られる感動を参加者全員で共有し、この感動を福井県の次世代を担う子どもたちの明るい未来につなげる大会とするため、「スポーツの感動を広め、未来へつなげる」を基本目標とします。

2 福井県が目指す国体

上記の基本目標のほか、福井国体の開催意義、国体改革の流れ等を踏まえ、二巡目となる平成30年福井国体は次のような国体を目指します。

① 「選手が躍動し、感動を生む国体」

国体は国内最高の競技会です。福井国体は、各都道府県を代表する選手のモチベーションを上げ、持てる力を存分に発揮できる大会を目指します。

また、国体は感動の宝庫です。選手の活躍はもちろん、参加者同士がふれあうことでも感動が生まれます。この感動を、選手と観覧者が一体となり共有できる大会を目指します。

② 「県民が創り、楽しむ国体」

国体を支えるのは県民一人ひとりの知恵と力です。さらに国体を楽しむことで一人ひとりの力が何倍にもなります。福井国体は、「する」「みる」「支える」のそれぞれの立場から県民が国体を創り上げ、楽しめる本県らしい大会を目指します。そして、80万県民による心のこもった、手づくり感あふれる大会を目指します。

③ 「参加者のつながりを深め、福井の魅力を発信する国体」

国体は、選手・監督をはじめ、大会関係者、一般観覧者など全国各地から多くの方が来県する一大イベントでもあります。競技会や民泊、おもてなし等を通じて、参加者がふれあい、つながりを深め、福井の魅力を全国に発信する大会を目指します。

第3章 福井国体の舞台づくり ～開催に向けた取り組み～

福井県が目指す国体を実現し、基本目標を達成するには、国体という全国レベルのイベントを支える強固な基礎、基盤（舞台）が必要不可欠です。

平成30年の福井国体開催に向けて、次のとおり開催に向けた舞台づくりを進めます。

1 県民の総力を結集した国体

(1) 県民総参加の大会

① 福井国体開催の認知度向上と開催気運の醸成

広報紙の発行やマスメディアを通じた広報活動に加え、出前講座やパネル展示、各種イベントでのブース設置等を積極的かつ継続的に行い、福井国体に関する最新の情報等を広く県民に知っていただくとともに、開催気運の醸成を図ります。



第1回出前講座の様子

② 全市町における競技会の開催

県全体で国体を盛り上げるため、県内全市町において、正式競技、特別競技、公開競技もしくはデモンストレーションスポーツのうち、1競技以上を開催します。

③ スポーツボランティアおよび国体ボランティアの計画的な養成

より多くの県民に国体を「支えて」いただくため、各競技会において競技運営に携わっていただくスポーツボランティアや、開会式・閉会式、県民運動などに積極的に参加していただく国体ボランティアを計画的に養成します。

④ 様々な参加機会の創出

子どもから高齢者までが手軽にできる体操やダンスの創作・実践や開会式の直前に行われる式典前演技への参加、花いっぱい運動等のおもてなし、誰もが参加しやすい国体募金の創設など、県民一人ひとりが何らかの形で国体に参加できる機会を創出します。

(2) 人と環境にやさしい大会

① 人にやさしい施設整備

人にやさしい大会とするため、施設整備に当たっては、国体後に開催する全国障害者スポーツ大会での利用、ユニバーサルデザインに主眼を置き、誰もが観戦しやすい環境整備に努めるとともに、国体後の日常的な利用しやすさにも配慮します。

② 環境にやさしい施設整備・大会運営

環境にやさしい大会とするため、施設整備に当たっては、競技会場としての必要十分な機能を確保しつつ、間伐材の活用や廃棄物の削減など環境にやさしく、効率性の高い整備を行います。

また、大会運営や準備に当たっては、グリーン購入を推進し、3R（Reduce・Reuse・Recycle）を徹底するほか、可能な限り公共交通機関を利用するなど環境への負担や無駄が少なくなるよう努めます。

(3) 効率的な大会

① 既存施設の有効活用

競技施設については、県内の既存施設を活用することを原則とし、国体開催に真に必要な施設については、通常の県民利用の観点から検討し、適切な整備を行います。

なお、競技運営上の効率性、国体後のスポーツ振興や施設の有効利用等の観点から総合的に検討し、近隣府県の施設利用が妥当と判断される競技は県外で開催します。

② 効率的な競技用具の調達

競技用具は、県、会場地市町、県競技団体等が現有するものを活用することを原則とし、不足するものについては近隣府県から借用し、借用困難な場合には、購入や他県との共同調達等を検討します。

③ 全国障害者スポーツ大会の円滑な開催準備

国体終了後に開催される全国障害者スポーツ大会について、施設整備、輸送交通、宿泊等の面で国体と深く関わるため、国体の開催準備と併せて効率的かつ円滑に準備を進めます。



第10回全国障害者スポーツ大会
(千葉大会) 開会式 [幕張メッセ]

2 国体を通してスポーツ文化を浸透

(1) スポーツへの関心の向上

① 開催県としてふさわしい成績の獲得

国体での県民の盛り上がりには県内選手の活躍が不可欠であり、開催県としてふさわしい成績の獲得を目標に、計画的に県内選手の競技力向上を図ります。

② スポーツ観戦「みる」の推進

学校における校外活動の一環としての競技会観戦の位置づけやシルバーシートの設置、多様なメディアで視聴が可能なシステムの構築など、スポーツを「みる」環境づくりに努めます。

③ 開催競技の地域での盛り上げと定着推進

競技会場地となる市町民に関心を持ってもらうとともに、開催競技の根づきのため、当該競技団体を中心に会場市町と連携した啓発活動やPRイベント、体験教室などを準備段階から実施します。

(2)スポーツ環境の整備

① 長期的視点に立った選手の発掘と育成

ジュニアから成年までの一貫指導体制の確立やスポーツ医・科学を取り入れた指導方法の普及などにより、国体後も計画的かつ継続的に選手の発掘・育成を進めます。

② 審判員等の県内養成

国体後の県内における主要な大会の開催を想定し、原則として、審判員等は県内において養成・確保します。競技団体には、有資格の審判員等を計画的に養成するよう働きかけます。

③ 地域スポーツ振興の核となる指導者の育成と活動拠点の充実

選手が国体後、指導者として活躍するとともに、この指導者を計画的に養成することで、生涯スポーツ振興の核となる人材を育てます。また、その活動拠点となる総合型地域スポーツクラブの県内全域における創設・育成に努めます。

④ スポーツボランティアの積極的な育成

各競技会の運営に競技補助員として直接携わっていただく、スポーツボランティアを積極的に育成します。

(3)スポーツを幅広く推進(競技から運動まで)

① デモンストレーションスポーツの積極的な実施

県民を対象とするデモンストレーションスポーツについて、本県発祥のスポーツを含めた特色のあるものを可能な限り多く実施するとともに、多くの県民の参加を促すことで、子どもたちから高齢者までそれぞれが好きなスポーツを見つけ、生涯を通じた幅広いスポーツ活動に結び付ききっかけとします。

② 「1県民1スポーツキャンペーン(仮称)」の展開

県民一人ひとりが年齢や能力、嗜好に合ったスポーツを見つけるきっかけとなるキャンペーン等を展開し、国体後も継続してスポーツに取り組む意識付けに努めます。

③ 学校における体育・スポーツの充実

国体開催を契機に高まったスポーツへの関心を、学校の教育活動へも波及させ、運動習慣を持たない児童・生徒が様々なスポーツ体験や体を動かす喜びを味わえる機会を増やします。

3 ふるさと福井の魅力再発見・発信

(1) 心に残る交流の促進

① 「交流イベント」等の積極的な開催

積極的に交流イベントを開催して、参加選手と地域住民がふれあい、大会後も交流が続くような交流の場を設けます。

② 民泊・民宿の活用による交流の推進

宿泊施設数が少ない福井県において、その不足を補い、県民と各都道府県選手団が直接交流する絶好の機会として、選手等が一般の家庭に宿泊する民泊を推進します。また、全国一の数を誇る漁家民宿も活用します。

③ 他都道府県選手の積極的な応援

福井県選手団の応援はもちろん、他都道府県選手の応援も積極的に行います。福井国体に参加した選手全員を応援することで、大会全体を盛り上げるとともに、福井県民のあたたかい心を全国に伝えます。

(2) 福井の魅力再発見と発信

① 福井の魅力再発見とPR

福井県が進めている「考福学」との連携により、食、長寿、歴史、伝統文化など、福井の魅力（ふくいのお宝）を県民が再発見し、自ら発信できるような企画を実施します。

また、県民募集等により、隠れた福井の魅力を引き出すとともに、国体開催時には、福井の魅力を効果的にアピールするPRボランティア等の養成に努めます。

② 福井県独自の文化プログラムの実施

国体開催年に年間を通して実施される文化プログラムについて、福井県の郷土文化をテーマとした催しやスポーツの素晴らしさや感動を伝えるような独自のイベントの開催に努めます。

③ 福井ならではの総合開・閉会式の演出

総合開・閉会式では、福井の歴史・文化、伝統、習慣などをモチーフにした福井県ならではの演出を行い、福井文化を全国に発信します。

(3) ふくいブランドの発信

① ふくいブランドの活用

施設整備に当たって、県産材を積極的に活用するとともに、選手団の昼食等の共通食材に県産農林水産物を使用し、ふくいブランドをPRします。

② 市町特産品の知名度アップ

優秀な成績を収めた選手やチームに対する各市町の特産品を使った副賞の授与など、注目を集める場面でのふくいブランドの発信に努めます。

第4章 福井国体の主人公たち

～活躍が期待される主体とその役割～

国体という国内最高の競技会の主人公は言うまでもなく選手です。しかし、スポーツの祭典としての国体と捉えれば、「する」「みる」「支える」の立場から、さまざまな形で国体に関わる一人ひとりが主人公であり、次の各主体が国体という舞台を楽しみ、活躍することが国体の成功につながります。

一人ひとりがどういう立場で国体にどう関わられるかを考え、積極的に国体に参加し、国体を楽しみましょう。

1 選手 ～持てる力を最大限発揮～

(1)フェアな精神で持てる力を最大限発揮

国体を世界に羽ばたく舞台と位置付け、スポーツマンシップに則ったフェアの精神のもと、日頃の練習の成果を如何なく発揮しましょう。

(2)がんばる姿がみる者全てに感動を

各都道府県の代表として、どんなに厳しい状況でも、自らの持つ力を信じて、最後まで競い、戦いましょう。その姿こそが、みる者全ての共感を誘い、大きな感動を与えます。

(3)他都道府県選手や開催市町住民との交流促進

ともに競い、ともに戦った選手同士の交流、応援していただいた地元住民とのふれあいの中で絆を深め、感動を共有し、選手一人ひとりの心に残る大会にしましょう。

2 県民 ～積極的に参加し、国体を楽しむ～

(1)県民の元気と創意を結集(1県民1参加)

競技会の運営などのスポーツボランティアや、式典や地域が一体となって行う県民運動の国体ボランティアに積極的に参加し、国体を創り上げましょう。

また、競技会に出かけて、福井県選手を応援し盛り上げるとともに、他都道府県選手の素晴らしいプレイにも声援を送り、国体を楽しみましょう。

(2)スポーツの県民生活への浸透(1県民1スポーツ)

国体競技か否かに関わらず、好きなスポーツを見つけ、試合を観戦したり、実際にやってみましょう。

また、ウォーキングなど気軽に体を動かすことから、競技会に出場することまで、できる範囲でスポーツ活動に取り組み、生活の中にスポーツを取り入れましょう。

(3)ふるさとの魅力を発揮(1県民1自慢)

全国からのお客様を温もりの心でもてなし、他都道府県の選手や関係者等と積極的に交流しましょう。

また、国体を契機に、ふるさと福井の魅力を再発見し、交流を通じて、福井の豊かな自然や文化、食などのふくいブランドを他都道府県の人に積極的にアピールしましょう。

3 競技団体 ～国体を通してスポーツ振興～

(1)スポーツの普及やスポーツを親しむ環境づくり(1市町1スポーツ)

公益財団法人 福井県体育協会(県体協)は、県民がスポーツに親しみ、楽しめる環境づくりを行い、各競技団体は、競技会場地となる市町を中心に、国体後も競技の普及・振興に努めましょう。

福井県レクリエーション協会は、県民へのレクリエーションスポーツの振興を図り、各スポーツ少年団は、国体を通して地域における青少年のスポーツ環境や指導体制を整備し、子どもたちにとってスポーツが身近なものとなるよう努めましょう。

福井県発祥のニュースポーツ



マレットゴルフ



ソフトバレーボール



スティックリング

(2)選手強化、指導者・審判員等の養成

各競技団体は、国体に福井県選手が活躍できるよう選手の強化を行うとともに、国体運営が円滑に行われるよう指導員や審判員等を計画的に養成しましょう。

県体協は、各競技団体が行う選手強化（ジュニアから成年までの一貫指導体制の確立等）、指導者および審判員の養成等について、競技団体を指導し、支援しましょう。

(3)会場地市町との連携による競技会の円滑な準備、運営

各競技団体は、会場地市町と協力し、選手が気持ちよく試合に臨める競技会の開催に向けた準備とスムーズな大会運営の実現に努めましょう。

福井県レクリエーション協会は、関係するデモンストレーションスポーツの運営に積極的に携わりましょう。

中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟は、競技会の運営や審判員等の養成に協力しましょう。

4 企業 ～国体開催に向けた積極的な支援（1企業1支援）～

(1)地域スポーツや競技スポーツの支援

トップアスリートや優秀な指導者を受け入れる体制づくり、社員がスポーツに親しめる環境づくりなど、企業としてスポーツに積極的に取り組むことで県民のスポーツ活動を支援する意識を高めましょう。

(2)ふくいブランドの発信と観光振興への寄与

企業がそれぞれの活動の中で積極的にふくいブランドを発信し、福井の魅力を全国的に広めることにより、観光振興につなげましょう。

(3)企業協賛、国体募金等による国体運営支援

協賛への参加や国体募金への積極的な取り組みなど、国体の運営基盤づくりをサポートしましょう。

(4)企業が保有するスポーツ施設の提供

保有するスポーツ施設を県民のスポーツ活動の場として、あるいは、国体の練習会場として提供し、県民のスポーツ振興に貢献しましょう。

5 各種団体 ～選手への温かい声援と国体への参加、盛り上げ～

(1)学校(小学校、中学校、高等学校、大学等)

平成30年の福井国体開催および選手として出場できる可能性について周知し、スポーツや国体に対する興味・関心を喚起しましょう。また、自分たちの学校にゆかりのある選手など福井県選手の応援やスポーツイベントへの参加など、スポーツの楽しさやスポーツをみること、することで得られる感動を、児童、生徒、学生が体験できる機会を多く持てるよう努めましょう。

さらに、児童、生徒、学生が楽しんで開会式の出演や競技会の運営・準備に携われるよう支援するとともに、体育館等の一般開放、スポーツを通じた児童、生徒、学生と地域住民との交流促進に努めましょう。

(2)地域住民組織(自治会壮年会、婦人会、老人会、青年会など)およびNPO

それぞれ得意な分野の県民運動に積極的に参加し、国体気運を高めましょう。

国体開催時には、ボランティアなどに参加し、市町で行われる各競技会の運営・準備を支援しましょう。また、自分たちの地域にゆかりのある選手など福井県選手を応援し盛り上げるとともに、来県する選手、監督をはじめ、大会関係者や一般観覧者に対し、心のこもったおもてなしをし、交流を深めましょう。

さらに、国体を契機として、スポーツや県民運動、さまざまな交流を通じた地域のつながりを深めましょう。

(3)家庭

家族がそれぞれ自分にあったスポーツを見つけ、家族ぐるみでスポーツに取り組みましょう。

また、国体開催時には、家族ぐるみでボランティアに参加したり、選手の応援に行くなど、国体に参加し、国体を楽しみ、国体を盛り上げましょう。

6 市町 ～開催競技の普及振興と心のこもったおもてなし～

(1)各市町が正式競技、特別競技、公開競技、デモンストレーションスポーツから1競技以上を開催

各市町は、正式競技、特別競技、公開競技、デモンストレーションスポーツのうち1競技以上を開催しましょう。

(2)競技団体等との連携による競技会の円滑な準備、運営

競技会は、市町と競技団体が主催となります。競技団体や福井県レクリエーション協会のもとより、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟などの関係団体と連携し、競技会の円滑な準備、運営を行いましょ

(3)開催競技の普及振興に向けた活動推進(1市町1スポーツ)

各市町で開催する正式競技、特別競技、公開競技、デモンストレーションスポーツを、国体開催後も、わが市、わが町のスポーツとして競技団体等と連携・協力し、根付かせるよう努めましょう。

また、総合型地域スポーツクラブの創設、育成や活動の支援に努め、住民がスポーツに取り組みやすい環境の整備を図りましょう。

(4)民泊を含めた地域全体でのおもてなし(1地域1交流)

民泊をはじめ、交流イベント等の開催や応援メッセージの作成、伝統料理などのふるまい、クリーンアップ運動、花いっぱい運動など、全国からのお客様を温もりの心で迎え、交流の輪を広げられる催しを企画し、地域全体でおもてなしを行いましょ

第5章 福井国体の成果

福井国体という舞台で、80万人のさまざまな立場の主人公たちが各自の役割を全うすることで、国内最高の競技会、かつ、国内最大規模のイベントを成功裡に終えることができるだけでなく、「選手が躍動し、感動を生む国体」、「県民が創り、楽しむ福井らしい国体」、「参加者相互のつながりを深め、福井の魅力を発信する国体」が現実のものとなり、「スポーツの感動を広め、未来へつなげる」ことができます。

一方で、国体を契機として、スポーツに対する関心や県民運動の気運が高まり、県内・県外で新たな交流が生まれることが、さらに多くの成果をもたらします。

健康づくりやスポーツ振興の面では、健康増進・体力向上といった目的からトップアスリートを目指すことまで、県民が何らかの形でスポーツに関心を持ち、できる範囲で実際に取り組むことが期待できます。これにより、県民の健康・体力の保持増進や健康長寿につながります。

地域づくりの面では、競技会の開催準備の過程で築かれる、市町と競技団体との強固な協力体制を活かし、前回国体でのホッケーやボートのように、競技を開催市町に根付かせることが期待できます。

また、地域が一体となって県民運動を盛り上げ、住民の力と創意を結集して競技会を開催する過程で、地域の絆の深まりや人づくりにつながるほか、国体後の大会開催や合宿誘致、土産物の開発・販売などスポーツを通じた地域振興、産業振興にもつながります。

そのほか、他都道府県の選手・監督や一般観覧者との心の通った交流が、国体後も引き継がれ、地域間交流に発展するといった成果や、各都道府県を代表するアスリートが繰り広げる熱い戦いをみて、スポーツの感動を肌で感じることで、子どもたちに夢や希望を与えるといった効果も期待できます。

このように、県民一人ひとりがそれぞれの体力や目的に応じて、さまざまな形で生活の中にスポーツを取り入れ、習慣化するとともに、地域に根付いたスポーツを支え、盛り上げ、そこから得られる感動や地域の活力を、スポーツ振興や地域づくりという形で次世代に受け継いでいく一連の流れを「福井型スポーツ文化」とし、その定着を図ることが、国体開催によってもたらされ、未来へつなげることができる最大の成果と考えています。

福井国体を効率的に開催するとともに、単なる全国規模の競技会、一過性のイベントとして終わらせることなく、県民の健康長寿やスポーツ振興、地域づくり、人づくりといった県民にとって価値あるものとなるよう、総力をあげて取り組んでいきます。